

プロだけが知っている ヒミツ+銘柄

株式アナリスト 櫻井英明



〈連載⑤〉

謹賀新年。2020（令

和）年の株式劇場も幕を開いた。米大統領選挙を中核に相変わらずイベント満載で金利と株価のバトルは今年も続く。右往左往せず明確な目標と強い意志を持つことが一番望まれる。

東証マザーズにJDR（日本預託証券）として上場しているテックポイント・インク（6697）。

12年4月に米シリコンバレーのサンノゼで設立されたファブレス半導体メーカ

テックポイント

1だ。

本社は米国だが、ドライブレコーダーや電子ミラーなど車載エレクトロニクスの先進技術開発が盛んな日本に、日本人「テックポイントジャパン」を設立。次世代半導体製品の開発を推進、監視カメラや車載カメラ向け半導体で人々の安心・安全に貢献することを目指している。

監視カメラ向け半導体は、将来的にはCMOSセンサーまで含め、半導体と

センサーを一気通貫供給できる存在を目指しており、シェアの上昇を図る方向。車載カメラシステム向け半導体ではリアビューカメラやサウンドビュー用途から、ドライブレコーダー

や電子ミラーへ用途を拡大。先進運転支援システムの自動車への普及拡大に合わせ販売数の増加を目指している。いずれも世界の市場規模は今後拡大する見込みだ。また、CMOSイメージセンサー、魚眼補正機能・WDR機能搭載ISP、音声対応の半導体製品、4K解像度対応、液晶ディスプレイコントローラーなどの開発案件は今後の成長エンジンとなり得よう。

「日本の半導体ビジネスの活性化に少しでも貢献したい」というのが同社の東証上場の背景だ。売り上げの約35%を占める車載カメラ向け半導体の拡大を背景に業績は好調。前期（19年12月期）は増収増益の見通し。



17年9月に海外企業として約3年半ぶりに上場した際の公開価格は650円で初値は1072円。過去1年は600円と1000円のレンジでの動きで、直近は700円水準での推移となっている。高い技術をもっているのに気付かれずに見逃されている印象だ。昨年来高値1129円奪還から上場来高値2950円復活に期待する。

日本の半導体ビジネスを活性化

「いいものはいい」と考えたいし3年は親子に期待のアノマリーも、太平洋をまたいだ日米の懸け橋でもある同社にふさわしい。